

HUMAN RIGHTS MESSAGE

じんけん 人権とは…

「人権」というと、どうしても、特別なこと、難しいこと、堅苦しいことといったイメージを思い浮かべがちです。

しかし、「人権」は私たち一人ひとりにとってかけがえないとても大切なものであり、誰もが生まれながらにして持っている、誰からも侵されることのない、人として幸せに生きていくための当然の権利です。

また、日頃からの思いやりの心によって守られるものであり、だれもが心で理解し、感じることができるものではないでしょうか。

インターネット上での誹謗中傷の書き込み、学校でのいじめや体罰、子どもに対する虐待、性別および性的指向・性自認の違いや被差別部落出身という理由による差別、お年寄りの疎外、障害のある人、外国人、アイヌの人々、ハンセン病、HIV や新型コロナウイルスなどの感染症患者、刑を終えて出所した人に対する偏見、犯罪被害者とそのご家族への興味本位のうわさや中傷、拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害や、高齢者など配慮を必要とする方々の災害時における人権問題など、数多くの人権にかかわる問題が起きています。

私たちは、誰もがみな幸せに生きたいと願っています。同時に、家族や友人などまわりの人々の幸せも願っています。すべての人々が幸せに生きていくために、お互いの人権や多様性を尊重し、「誰か」のことではなく、自分自身のこととして考え、行動しましょう。

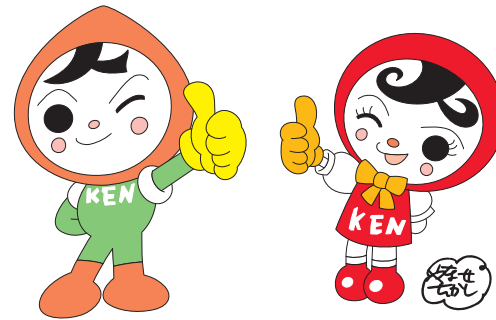
世界人権宣言

(1948年12月10日第3回国際連合総会で採択)

第1条 すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神を持って行動しなければならない。



誰もがお互いの人権を尊重し合うために、「誰か」のことではなく自分自身のこととして考え、行動しましょう。



人KENまもる君・人KENあゆみちゃん



石川県総務部総務課人権推進室

TEL:076-225-1235

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/soumu/index.html>

石川県人権啓発活動ネットワーク協議会



このリーフレットは再生紙を使用しています。

2025年 二十歳へ贈る人権メッセージ

「誰か」のこと じゃない。

HUMAN RIGHTS MESSAGE



石川県

MESSAGE



多様性を認め合う 社会の実現に向けて

石川県知事
はせ 馳 ひろし 浩

新たに二十歳を迎えられた皆さんに、心からお祝いを申し上げます。

能登半島地震から一年、皆さんは様々な思いを抱えながら過ごされたことと思います。これまでにない経験を、本年を迎えられた皆様にとって、二十歳という年齢は、人生における大きな節目であり、周囲からは、大人としての自覚をこれまで以上に求められることとなるとともに、自分がこれからどのような大人になり、どのように生きていくかについても、しっかりと考えていく必要があります。

今、子どもに対する虐待、学校でのいじめや体罰、性的マイノリティの方々への偏見など、人権をめぐる深刻な問題が後を絶ちません。さらに、インターネット上での差別や誹謗中傷の書き込みによる人権侵害についても、現在大きな問題となっています。

これから社会全体で、全ての方々が幸せを実感しながら発展を続けていくためには、誰もが自分らしく、いきいきと生活することができる社会を作り上げる必要があります。そのためには、私たち一人ひとりが多様性を認め合い、お互いに相手を思いやることがとても大切です。

皆さんは大人として、これから震災という大きな試練を乗り越え、新たな時代を生きていく中で、様々な悩みや困難を背負うかもしれません。こうした中においても、積極果敢にチャレンジする勇気や行動力といった「生きる力」を発揮できるよう応援しています。

そして、様々な人権問題についても、「誰か」のことではなく、自分自身の問題であると受け止め、多様性を認め合う社会の実現に向けて行動してくれることを、心から期待しています。

二十歳の皆さん



つながり 八田 奈乃葉(白山市)

この度、家族、友人、学校の先生、地域の方々、本当にたくさんの方に支えられながら、「二十歳」という大きな節目を迎えられました。

年齢を重ねると共に、関わるコミュニティの規模が広がっています。大学一年生の時から参加しているボランティアで感じたことです。相手の年齢・国籍・性別は関係ないのです。私たちは気付かないうちに、色んな偏見を持ちながら、人と接していると思います。けれど、その偏見が自分自身の生きづらさや可能性を追い詰めているように思えます。

私は今年、長期留学に挑戦します。世界の人々と交流しながら、自分の中の価値観や生き方について向き合ってきます。今より、もっと偏見や多様性について考える機会が多くなると思いますが、相手を想う思いやりを常に忘れずにいたいです。

世界中が今よりもっと笑顔と愛で包まれますように。



思いやりと 感謝の気持ち 藤本 琉希(宝達志水町)

家族や友人、そして周りの人たちに支えられながら、20歳という大切な節目を迎えることができました。ここまで無事に成長できたことに、心から感謝しています。

2024年1月1日に大きな地震が起き、その時私は初めて避難所に避難しました。その時は「もう一度大きな地震が来るのではないか」という不安な気持ちでいっぱいでした。避難所ではみんなが助け合い、協力し合っていました。私自身も地域の人に声をかけてもらい、「大丈夫?」という何気無い一言で不安や緊張を少しほぐすことができました。その一言は今でも忘れられません。この時に、周囲の思いやりがどれほど大切な支えとなっているか気づくことができました。

これからも、感謝の気持ちを忘れず、優しさや思いやりを持って周囲の人たちを支えることのできる人になれるよう努力します。

MESSAGE



二十歳の皆様へ

アーティスティックスイミング選手
(アース製薬(株)/井村アーティスティックスイミングクラブ)

きじま もえか
木島 萌香

二十歳を迎えられた皆さん、おめでとうございます。

アーティスティックスイミング競技、東京・パリオリンピックに日本代表として出場しました、木島萌香です。

オリンピックに出場するにあたって、地元の皆さんの応援が力になりました。ありがとうございます。

試合はもちろんのこと日々の練習も皆さんの応援が、辛い時に私の背中を押してくれます。

ここで一つ私の好きな言葉を紹介したいと思います。

「信じる」という言葉です。

「信じている」ということは、確実にこの期待に答えてくださいということで、この言葉をかけられると選択肢は一つしかありません。出来るか出来ないかではなく、やるしかないです。

「信じる」ということはあなたに懸けているということだと思います。

そこまで強く応援してくれる人がいるということが嬉しいですし、それと同時に絶対にこの期待に応えたいという思いが強くなります。

「信じているよ」という言葉が私を強くしてくれました。

皆さんもこれから沢山のことを経験し、上手くいくことばかりではないかもしれませんが、しかし、応援し、信じてくれる人は必ずいます。その期待に応えられるように努力し、信じてくれる人に感謝の気持ちを伝えられるよう頑張ってください。